

エコアクション21

# 環境活動レポート

(対象期間 2014年12月～2015年11月)

2016年1月発行

株式会社 千田精密工業

## 目次

◎ 事業の概要	-----	2
◎ 対象範囲	-----	2
◎ 環境方針	-----	3
◎ 実施体制	-----	4
◎ 環境目標・実績・次年度目標	-----	5
◎ 環境活動計画・取組み結果と次年度の取組み内容		6
◎ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	-----	7
◎ 代表者による全体評価・見直しの結果	-----	8

～事業概要～

◎事業者名、代表者名及び所在地

事業者名	株式会社	千田精密工業
代表者名	千田	伏二夫
所在地	本社・前沢工場	岩手県奥州市前沢区五合田19番1
	大槌工場	岩手県上閉伊郡大槌町大槌12地割3番地1字桩内
	東和工場	岩手県花巻市東和町鷹巣堂3区1の2

◎環境管理責任者 兼澤正志

連絡先 TEL) 0193-42-2880 FAX) 0193-42-2885  
E-mail [ohtsuchi@chidaseimitsu.com](mailto:ohtsuchi@chidaseimitsu.com)

◎事業内容

- ①半導体製造装置、液晶関連装置及び産業機器関連装置の精密部品の加工
- ②自動車関連特殊部品の加工・製作
- ③射出成形用金型の設計製作、金型部品加工及び保守・保全

◎事業規模

株式会社 千田精密工業 社員数100名

◎認証登録範囲

全組織・全事業活動

## 環境方針

地球環境の保全を経営の最重要課題のひとつと位置付け、全社員で環境保全に配慮した「ものづくり」を展開し、次世代により美しい自然環境を届ける。

## 環境行動指針

1. エコアクション21に基づき活動し、二酸化炭素・水使用量・廃棄物の排出抑制を行います。
2. 環境関連法規制を遵守します。
3. 不良率の低減に取り組めます。
4. FSW(摩擦攪拌接合)を活かし環境に配慮した製品を作ります。
5. 事務用品等のグリーン購入を推進します。
6. 製品の原材料・製造工程に含まれる化学物質の管理をします。
7. 地域環境活動に積極的に協力します。

平成23年1月29日  
株式会社 千田精密工業  
代表取締役 千田伏二夫

# エコアクション21 実施体制

2015.01.30



## 役割と責任・権限

役割	責任・権限
代表者	①環境方針を制定する。 ②環境管理責任者を任命する。 ③組織に対する資源を用意する。 ④環境責任者からの報告を受け全体の見直しを行う。
環境管理責任者	①代表者に代わってシステムを構築し、運用する。 ②代表者に結果を報告する。
環境責任者	①省資源、省エネ、節水を奨励実施する。 ②必要な教育訓練を実施し目標達成への取組みを推進する。 ③各工場間と連携し取組み状況を確認し、是正処置・改善を行い公害防止、緊急事態への予防処置を実施する。 ④地域住民、関連機関からの苦情等の窓口となり現地確認、対策、予防処置策定を実施し、環境管理責任者、代表者への報告、承認を受け速やかに実施する。
社員	①省資源、省エネ、節水に努める。 ②取組に関する教育訓練を受け改善提案をする。 ③自主的に地域の自然保護活動に参加する。

【環境目標の実績と評価】

【実績】

取組項目	単位	2012年度		2013年度 (2013年12月～2014年11月)		評価	
		基準	削減目標	目標	実績		削減率
①総エネルギー投入量	購入電力	MJ	32,886,442	32,228,713	30,949,372	5.9%	○
	化石燃料	MJ	666,386	653,058	749,564	-12.5%	×
②総物質投入量	金属材料	t	240	235	350	-45.8%	×
	紙使用量	kg	2,050	2,009	1,770	13.7%	○
③水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	1,327	1,300	1,332	-0.4%	○
④温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-Co2	2,052,271	2,011,226	1,939,764	5.5%	○
⑤廃棄物の削減	廃棄物総排出量	t	161	158	168	32.3%	○
	可燃ごみ削減	kg	7,980	7,820	6,460	19.0%	○
⑥環境配慮製品の普及活動 (FSW加工品の拡大)	%/売上		14%	14%	29%	達成	○
⑦グリーン購入	%		20%占有/購入品目	維持	17%	未達成	×
⑧化学物質使用量の削減	使用量		現状維持	維持	維持	達成	○
⑨地域活動 (エコキャップ・カレンダー寄付活動)	回		1回	1回	2回	達成	○

評価基準  
 ○：目標達成  
 △：目標値  
 (-5%以内 ≤ 削減率 < 1)  
 ×：目標未達

削減率 = { (2012年度基準 - 2014年度実績) } × 100 / (2012年度基準) で計算  
 ⑥実績評価は、活動年度売上に対する、FSW加工品売上比率で計算

～未達コメント～

化石燃料、金属材料の増加＝生産量増加に伴う必要な資源投入である。  
 あくまでも未達項目に関しては、生産活動における必要な資源投入である事から、  
 全体的な評価としては良しと判断する。

【環境目標】

2012年度実績値に二酸化炭素排出係数 (0.600kg-CO2/kwh) を用いて再計算し2014年から2016年までの3年間の中期計画を設定。  
 2012年度基準に対し、3年後に3%の削減目標とする。

取組項目	単位	2012年度	2014年(2013年度)	2015年(2014年度)	2016年(2015年度)	
		基準	中期目標			
		削減目標	1%削減	2%削減	3%削減	
①総エネルギー投入量	購入電力	MJ	32,886,442	32,557,578	32,228,713	31,899,849
	化石燃料	MJ	666,386	659,722	653,058	646,394
②総物質投入量	金属材料	t	240	238	235	233
	紙使用量	kg	2,050	2,030	2,009	1,989
③水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	1,327	1,314	1,300	1,287
④温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-Co2	2,052,271	2,031,748	2,011,226	1,990,703
⑤廃棄物の削減	廃棄物総排出量	t	161	159	158	156
	可燃ごみ削減	kg	7,980	7,900	7,820	7,741
⑥環境配慮製品の普及活動 (FSW加工品の拡大)	%/売上		14%	14%	15%	15%
⑦グリーン購入	%		20%占有/購入品目	維持	維持	維持
⑧化学物質使用量の削減	使用量		現状維持	維持	維持	維持
⑨地域活動	回		1回	1回	1回	1回

\* 二酸化炭素排出係数は、0.600kg-CO2/kwh (平成24年度電気事業者別二酸化炭素排出係数 東北電力(株)使用)

\* 年(年度)表記は、弊社事業年度12月-11月を示す。

【環境活動計画・取組み・結果及び次年度の取組み内容】

環境活動計画	評価	結果	次年度の主な取組み内容
<b>(1) 省エネルギーの推進（CO2の削減）</b>			
①エアコンの温度管理・運転抑制の徹底	・通年	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> <li>・継続</li> <li>・継続</li> <li>・設置後の費用（電気代）効果確認</li> </ul>
②エアコンフィルターの定期清掃の実施	・各工場での定期清掃の実施（8月・12月）		
③自動販売機の省電力・タイマー運転等の実施	・通年		
④各工場内空調設備関連の交換・計画	・大槌工場へ新規（6台）設置し旧設備撤去（11月）		
⑤照明・OA機器等の節電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3工場照明一部LEDに変更工事</li> <li>前沢：洗浄工場（増築） 大槌：エリア毎に設置</li> <li>東和：水銀灯交換</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各工場内照明LEDへ交換・検討（継続）</li> </ul>
⑥TV会議システム導入	・2月に導入。3工場間での情報共有化が図られている	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの有効活用を図る</li> </ul>
⑦社有車エコ運転の徹底 社有車の見直し（エコカー導入検討）	・運行記録表への記載による意識付け（通年）		
⑧社有車燃料（ガソリン・軽油）の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3工場間での効率的な納品業務の運行</li> <li>・受注量が拡大し、工場間や取引先への納品業務での移動により、燃料増となる</li> <li>ただし、必要な投入資源である</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> <li>・3工場間での納品業務における運行計画での情報共有を継続</li> </ul>
<b>(2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進</b>			
①段ボール等のリサイクル分別の徹底	・分別活動の徹底	○	・継続
②コピー用紙の使用量削減（裏紙使用の徹底） OA機器の入替え及び、システム見直し検討 （PC入替えによる、省電力化及び 業務システム見直しによる作業効率化）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー用紙の裏紙使用の継続</li> <li>・新生産管理システム導入による作業効率向上</li> <li>・新CAD/CAMシステム導入による作業効率向上</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> <li>・継続</li> <li>・継続</li> </ul>
③購入材料の削減・材料寸法の見直し等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> <li>・適正な材料寸法から加工方法について工場間で打合せ勉強会を開催し、各工場での共有化を図る</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続、随時購入材料寸法の見直し</li> <li>・工場間での技術交流を行い、情報の共有化を図る</li> </ul>
④工場間での加工方法の検討（不良率の低減）	・工場間での技術交流を頻繁に行う。		
<b>(3) 水使用量の削減</b>			
①節水表示の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度からの継続で廃液削減対策として、数社の切削液を社内評価しメーカーし、管理方法をまとめ活動を行う</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切削液管理と切替え効果の確認</li> </ul>
②節水作業の徹底			
<b>(4) 環境配慮製品の普及活動</b>			
①FSW（摩擦攪拌接合）加工品の拡大 首都圏等で開催される企業展へ出展 会社ホームページによる、情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FSW技術の認知度の向上</li> <li>・取引先によるFSW加工製品の生産拡大が大幅に図られた</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> </ul>
<b>(5) 化学物質の削減</b>			
①新規化学物質使用の確認	・定期的に客先からの調査依頼に対応・実施	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> </ul>

●環境関連法規類の遵守状況の確認及び、違反・訴訟の等の有無

●環境関連法規類の遵守状況の確認及び、違反・訴訟の等の有無

当社、2014年度における環境関連の適用法令に基づく遵守状況の確認結果は、以下の通りであった。（2016年1月確認）

関連法令	該当する活動	遵守状況
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任	適合
消防法	危険物貯蔵の届出	-
	消防用設備の点検（外部委託）	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の適正保管	適合
	産業廃棄物の適正処分 （運搬・処理、外部委託）	適合
	マニフェスト管理	適合
騒音規制法	規制区域の該当	-
	特定施設の該当	-
振動規制法	規制区域の該当	-
	特定施設の該当	-
浄化槽法	浄化槽設備の点検（外部委託）	適合
奥州市環境基本条例	環境負荷の低減及び環境保全	適合
花巻市環境基本条例		適合
大槌町環境基本条例		適合

\*（-非該当）

上記の通り、環境に関連する法令について確認した結果、不適合は有りませんでした。  
又、2014年度において近隣・行政等の利害関係者より環境に関する苦情、訴訟はありませんでした。



## 【代表者による評価・見直し結果】

### （評価）

昨年度は製品開発に取り組んできた部分が受注（FSW）に結び付き、売上実績に繋がりました。生産増加に伴い資源の投入量は増加致しましたが、必須項目（二酸化炭素・廃棄物量・水使用量）の実績値（原単位）と売上比率での比較も行い、どちらも前年度より削減する事が出来ております。必要な資源を投入をする事で、どの様に変化していくか引き続き推移を確認しながら取り組んで下さい。必要資源の投資では、各工場照明一部をLED化を実施、又、大槌工場へはエアコン設備新規入替えを行うなど、工場の実情を考慮した設備投資を行う事が出来ました。引き続きこれらの投資の効果確認を行いながら今後に繋げていきたいと思っております。継続して必須項目（二酸化炭素・廃棄物量・水使用量）は経過観察とし、毎月のデータにおける異常値と思われる数値に対しては今後も早急な対応を心がけて下さい。

### （見直し結果）

- ① 環境方針の見直し⇒不要
- ② 目標値の見直し要否⇒不要
- ③ 資源の投入⇒必要に応じ判断
  - ・工場内照明LEDへ交換（工場単位・工場エリア毎に入替え）

## 【次年度の取り組み内容】

引き続き今年度の取り組み項目を継続・実施して下さい。今年度は委員会活動を充実させ、全社での協力・連携を強め、一人一人の生産活動への取り組みを通じて、環境活動への結果にも繋がる事を意識しながら進めて下さい。来年度の状況に応じて、必要な資源の投入を随時検討いたします。